着色優良系統ふじの導入に向けて

近年の温暖化に対応したリンゴ栽培を考える

▼ 福島県飯坂市を訪れ、10月上旬の着色優良系統ふじの着色度合いを視察（ＪＡ相馬村果樹産地プロジェクトチーム）。

●**株式会社 木村商店**　代表取締役　**木村 英明**さん（右奥）

• ふじの栽培面積：100ａ　　• 着色優良系統ふじ：紅虎／うまじろう

※自社の選果場で選果・荷造り作業を行い、市場やスーパーに直接リンゴを販売している。

着色優良系統の必要性

りんご生産者の高齢化や補助労働力不足が深刻化する中で、着色管理に係る労力軽減対策が急務となっている。さらに、地球温暖化の影響により最低気温が上昇し、リンゴの着色に必要な発現温度まで下がる日が少ないことで着色不良も不安視されている。着色を待つ生産者は果実の軟質化や収穫遅れを招くことが懸念されるほか、温暖化による夜温の上昇はリンゴの呼吸量が多くなることでエネルギーを消費することから、販売面においても棚もちが悪くなる。生産から販売に至るまで、温暖化が及ぼす悪影響は産地にとって大きな課題となってきた。

前段でも触れている通り、近年は8月下旬から11月上旬までの気温が上昇している傾向にあり、少なからずリンゴの着色に影響を及ぼしていることが伺える。当ＪＡにおいても、その課題は急務としており、昨年、青森県よりも南下に位置する福島県のリンゴ園を視察した。その際に、普通系ふじの着色遅れを目の当たりにしたことを鮮明に覚えている。しかしながら、福島県においては課題解決に向けて徐々に着色優良系統ふじを導入しており、着色遅れの防止対策に乗り出していたのも印象的だった。

視察先の木村英明さんは、着色優良系統のふじは市場においても評判が良い反面、早期に着色が上がることから食味を重視した適期の収穫判断が以前よりも難しくなったと話す。リンゴにおいては見た目も非常に大事だが、食味も最大限に重視しなければリピーターが付いてこないことが挙げられる。以前、晩生種りんご精算報告会に

東一東京青果㈱
渡邊 勝俊　審議役

おいて東一東京青果㈱の渡邊審議役が産地に強く求めていたことが脳裏に浮かぶ。その際に、「ふじを切って、ふじを植える。」と話したことを覚えている。この言葉は、産地の悩み解消に向けて着色優良系統への更新を促すものだった。温暖化が押し迫る中で、今回は気温の変化を考慮したリンゴ生産に理解を深め、当ＪＡが推奨する着色優良系統を紹介したいと思う。

系統更新のススメ

着色優良系統ふじの長所は、その名の通り普通系ふじよりも着色が良く、早い段階から着色が進むことだ。また、着色が進むような年でも着色の差を確認することができ、色のバラつきも少ない。葉摘みや反射シートを設置する作業も省力化されることから、系統更新は労力軽減にも繋がる大きなカギを握っている。省力化を図るということは、すなわち少ない手間で作業を進められることから、人件費の削減にも繋がると云いえよう。

当ＪＡは、昨年から着色不良や労働力不足における対応策として、推奨した着色優良系統の苗木に一部助成していることから、今後の系統更新に向けて是非ご活用いただきたい。

着色優良系統の導入による効果

次ページの図1は、普通系ふじの一部に着色優良系統ふじを高接ぎした樹の写真である。普通系ふじの方は着色優良系統ふじよりも葉摘みを早く実施し、葉を摘む程度も強く行っている。一方、着色優良系統ふじの方は、元々着色良好なため葉摘み時期を普通系ふじよりも後に行い、葉を摘む程度も普通系ふじに比べて弱めに作業している。葉摘み後の10月21日時点では、普通系ふじよりも葉摘みを遅く行った着色優良系統ふじの方が着色度合いも勝っていたのが写真を見ても分かる程だ。また、過度な葉摘みをしなくても着色するため、紫外線ヤケ防止にも効果が見込める。

成木の真横に苗木を植えて育成

このように、着色優良系統の導入は品質向上と労力軽減に大きな力を発揮しているはずだ。

効率的な系統更新に向けて

まず、着色優良系統を導入する場合は食味の良いものを選択することが大切だ。また、導入に向けては、労力を考慮した上で品種割合を見直すことも重要になってくる。黄色品種や早生及び中生種か

苗木を密植させて育成させる

図１　着色の差がハッキリと見て分かる（10月21日撮影）

ら過度に晩生種である着色優良系統ふじを増やすと今まで以上に労力が必要となるため、家族労働で十分に間に合うことを前提に導入していかなければならない。まずは、普通系ふじから着色優良系統ふじへの更新を前提に考えて頂きたいところだ。さらに、労働力不足解消に向けては、急傾斜園の平場移行やワイ化栽培への改植など、園地の若返りも視野に入れて生産の効率化を図ることも必要な時代となってきている。系統更新の際は、丸葉とワイ化の選択や本数など、条件不利地からの平場移行も肝心だ。

　系統更新といっても、従来までの樹を伐採して新植した場合、果実を収穫できるまでには数年の月日が必要であることは言うまでもなく、その期間の収量は伐採前よりも減少する。収量の減少を少しでも抑えるためには、園地の一部に苗木を密植させて育成するスペースを設けることや、既存の成木の胴樹付近に苗木を植えて収量をある程度維持しながら苗木を育成する方法がある。農業経営として計画的な系統更新が求められてくる。

飛馬ブランドの確立に向けて

　着色や食味を究極に追及するとなれば、地域一丸となって系統の統一も図っていければ飛馬りんごの更なる飛躍へと繋がっていくのではないだろうか。一括りに着色優良系統ふじといっても系統ごとに特徴がある。果点荒れが少ない「宮美ふじ」、着色において縞が鮮明な「うまじろう」、果形が他系統に比べて円形でがくあ部まで着色する「紅虎」など、いずれも着色良好な点に加えて特徴は様々兼ね備えている。当ＪＡ管内においては、各系統を既に導入している生産者も見られることから、皆さんに情報共有しながら今後も産地力強化を図って参ります。

ＪＡ相馬村が推奨する着色優良系統

うまじろう

・ふじの枝替わりから出た着色系ふじ
・花芽形成が非常に優れ、量産型である
・蜜入りが良く、ジューシーで肉質、食味ともに良好

宮美ふじ

・長ふ系ふじから選抜した着色系統
・果点荒れが少なく綺麗な果形が多いことが特徴
・従来のふじよりも冷蔵ヤケが少ないが、成りはじめは縞が不明瞭になる場合もある

紅虎

・「三島ふじ」の枝変わりで温暖化に対応した早期着色系ふじ
・果形は円～長円形。果色は濃赤色でがくあ部まで着色
・色付き始めが9月下旬より始まるが、早もぎに注意する

着色優良系統ふじ
購入に対する
助成について

品　種：うまじろう
宮美ふじ
紅虎
コスモふじ
平成美人

助成金：1本あたり **500円**

※年間500本までの上限あり

コスモふじ

・ふじの枝変わりから生まれた着色先行型の新品種
・蜜入りに優れ、ふじよりも硬く、食味が良い

平成美人

・「平成ふじ」の中より、色彩が濃くバラツキの少ない優良系統を選抜育成した「究極のふじ」
・着色のバラツキや玉揃いも良い為、りんご品評会でも高評価を得ている